



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	サブカルサブリ第26回：祝「アニ玉祭」開催！他が真似できない「埼玉らしさ」
Author(s)	山村，高淑
Description	埼玉新聞2013年10月19日版，特集「サイタマニア」アニ玉祭号外，p.2
Citation	埼玉新聞
Issue Date	2013-10-19
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/53422
Type	article
File Information	20131019Saitamania subcul suppl No.26.pdf



山村高淑教授の

サブカル
サブリ

アニメや漫画の舞台地が多いサブカル
王国・埼玉。その魅力を「アニメツーリス
ム」の専門家、山村高淑氏が紹介する。

しやれ分かる粋な行政

大宮ソニックシティオーブン
25周年、そしてアニメ祭開催
心からお慶び申し上げます。
そして正直に申し上げます。
こういう混沌とした味のある
イベントが開催できる埼玉県
がうらやましい。とりわけ、県
と公益財団法人が主催であり
ながら、「ソニック」つながり
というだけで(笑)公式イメー
ジガールにすーぱーそに子さ
んを登用したその勇氣。ファ
ン目線がしっかりあるが故の
勇氣。しやれが分かる粋な行
政に心から敬意を表します。

近年、全国各地でアニメを
主題にしたイベントが開催さ
れていますが、結局どこも同
じようなイベントになりつつ
ある。でも全てがお台場や幕
張のようになってしまったら
つまらない。そんな中、埼玉は

祝「アニメ祭」開催！ 他が真似できない 「埼玉らしさ」

他の追随を許さない、異様な
個性を放っています。それは
もちろん、個性的で味のある
良い作品に恵まれていること
が大きいのですが、それを活か
していく文化がしっかりと定着
している点も重要です。

それは、「地域文化」「著作権
者側の企業文化」「著作権
という、異なる三つの文化の
絶妙なバランスです。これら
が共存し、遊び心を大切にし
ながらがっちりタッグを組みつ
つも、それぞれがしっかりと主張
し楽しんでいる。単なる観光
見本市でも、版權ビジネス商
談会でも、ファンイベントでも
ない。驚宮の土師祭がその典
型例だと思ふのですが、一見
混沌としているように見えて、
実は各主体の深い相互理解の
もと、しっかりと協力関係が
構築されている。埼玉のアニ
メ聖地イベントの居心地の良
さの理由はそこにあるのだと

思います。

熱い裏方魂、先見の明も

こうした「埼玉らしさ」が生
まれたのは、地域、著作権者
ファンの皆さんそれぞれのこ
ろろがあつたからに他ならな
いのですが、ここでは、県観光
課さんの「すこ」に触れてお
きたいと思います。

同課は、『らき☆すた』TV
放送翌年の2008年4月、
ウェブ上に「ちよ〜でい〜ぶな
観光協会」を開設。県内のア
ニメ聖地情報などを世界に向
け発信し始めています。その
先見の明たるや、さすがです。

そして09年度には、アニメ制
作者や漫画家等で構成する
「埼玉県アニメツーリズム検討
委員会」を設置。今や伝説と
なった事件なのですが、同会議
でメンバーが雑談ばく(いや、
真剣に)議論していた「アニ

メの制服を県内の高校で採用
したらどうなるか」という話
を、観光課さんがごく自然に
報道各社にリリース(一)した
んですね。お蔭でネットは大
炎上(笑)。そうした観光課の
広報における話題作りのうま
さには、委員一同冷や汗……い
や心底脱帽しましたし、観光
課が率先してそうした自由な
議論の在り方を示してくれた
ことで、その後、各市町村も随
分動きやすくなったのも事実
です。

アニメ祭にも、そうした観
光課の熱い裏方魂が込められ
ています。他府県行政には真
似できない魅力です(笑)。

初日19日のトークセッション
では、元県観光課職員で現
神川町副町長の島田邦弘氏と、
不肖私とで、このあたりの話を
ディープにさせていただく予
定です。皆様のご来場をお待
ちしております!!